

CSA とデータ分析で内部監査の バリューアップに挑戦する

「経営を支える内部監査の8つの重点課題とその対応策」〔第7回開催分（全8回開催）〕

- 日 時 ● 2014年10月28日（火）14:00～17:00
- 会 場 ● 東京・麹町 企業研究会『セミナールーム』
- 講 師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人

大手監査法人で20年近く会計監査を経験し、10数年にわたり内部監査、内部統制、不正調査、リスク管理等のアドバイザー業務を専門に行い、2012年、新日本有限責任監査法人シニア・パートナーを退任。現在、A Bボルボ コーポレートオーディット日本担当ディレクター/UDトラックス株式会社監査役として内部監査の統括及び監査実務に従事。一方で内部監査関連の執筆、講演活動にも従事。最近の著書に「内部監査の課題解決法 20」税務経理協会。米国公認会計士（現在 inactive）。

●プログラム●

- 講演/CSA とデータ分析で内部監査のバリューアップに挑戦する〔14:00—16:00〕

内部監査のバリューアップに役立つ手法として CSA（統制自己評価）あるいは事前質問書を利用する内部監査部門は増えています。しかしうまく使いこなしているように見える企業は意外と少ないものです。その背景には CSA 自体の設計や運用に問題があって CSA の効果が上がっていないケースや内部監査が CSA の活動と連携できていなかったり、これを監査のためにうまく活用できていないケースが見られます。このような場合には、その制度や内部監査の利用方法を見直すことで効果が改善することが考えられます。一方、データ分析の監査への利用はツールの導入やそれを使える技術者が必要であることもあって、まだ少数にとどまっていますが、監査の省力化と品質の向上を進める上で大きな可能性をもっています。今回は内部監査の付加価値向上を手法の面から強力にバックアップする CSA とデータ分析の内部監査における活用の仕方、そのための体制の整備を事例等を紹介しながら検討します。

1. CSA（統制自己評価）を内部監査に利用するいくつかの方法、制度設計の留意点
2. CSA（ワークショップ方式）の組み立て方と内部監査への活用事例
3. データ分析の内部監査における利用と効果、海外監査等への適用

- 講演をベースとしたディスカッション&総括コメント〔16:00—17:00〕

～参加各社の対応事例や現状の問題意識をシェアする中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

- 受講料：1名（資料代含む）

正会員	27,000円	一般	30,240円
-----	---------	----	---------

〔本体価格 25,000円 本体価格 28,000円〕

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認ください。<http://www.bri.or.jp>

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

開催1週間前に、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。
※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者
がご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

- 申込先

一般社団法人 企業研究会

担当) 居代 E-mail: ishиро@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951～2

140177	2014 10/28	経営を支える内部監査の8つの重点課題と～	
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			

★裏面もご参照ください